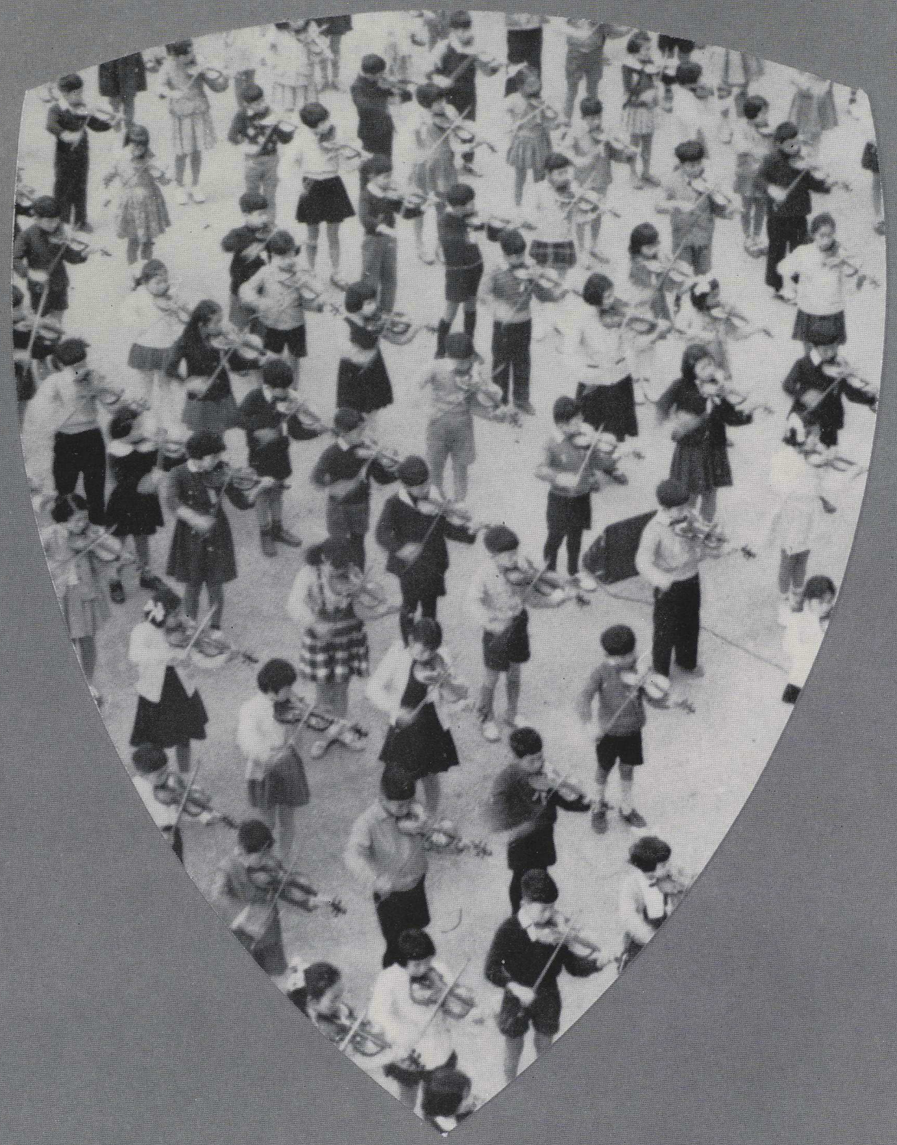
TALENT EDUCATION

才 能 教 育

1966



MARCH 27, 1966　1:30 P.M.　NIPPON BUDOKAN　KUDAN　TOKYO

■第12回全国大会・第14回卒業式■

■ 昭和41年3月27日（日）午後1時30分 ■

■ 日本武道館・東京九段 ■

■ 主催・才能教育研究会 ■

■なぜ子供を駄目にする どの子もすばらしい

会長
鈴木鎮一
President
Mr. S. Suzuki

才能と称せられる総ての能力も，生れた後の条件によって育ってゆく能力であって，生れつきそうした文化の特定な素質を遺伝として，もって生れてくる人間はない。

私はこのことを実証し，才能の育つ条件を明らかにし，又その教育法を決定して，人間能力開発の道を拓き，どの人の子にも才能の育つことを事実によって示そうとしているのである。
今日，ここに示される三千人の子供達のバイオリンの大合奏は，私共の同志や共鳴者によって育てられた生徒達で（幼きは3才より）日本全国から唯今参集し，リハーサルなしで本日のプログラムに従って演奏するのである。
三千名の子供達の大合奏，それは恐らく，世界で始めてのことであり，この事実を目のあたりに見，聞く人々に，極めて大きな感動を与えることであろう。
かってこの全国大会の大演奏をきいて感動せられたカンドー神父は賞讃して
　「奇蹟が現われた」
と申されたのであった.
然し，これは奇蹟ではない。
地上の総ての子供に与えられている可能性であり，人の子のすばらしさである.

才能は生れつきではない。
今や，音楽に於ては，才能をどのベビーにも育てる条件と方法が明らかになったのである.
　どうすれば，音楽的に優れたセンスや感覚が育ってくるか，
　どうすれば，どのベビーも音痴の人間に育てることが出来るのか，
そうしたことが，はっきりと方法化されたのである。
私は20年前にこの教育法を行なう教育に対して，「才能教育」という新らしい言葉をつくり，用いてきた。ところが，この頃では，社会一般でこの言葉を使い，誤り説く人々が，ふえてきたことは遺憾である.

教　育　法
日本の総ての子供達が，高い文化能力に育っている，即ちどの子も，日本語を自由に話す優れた能力の人に育っている。
この事実は一体何としたことか！

この驚くべきことに30数年前，気がついた私は，既成の人間に対する考えを捨て，新らしく，人間について思い，能力開発の問題について探究を始めたのであった。
　どの子も立派に育っている。
　母国語に示す世界の子供達の教育の可能性の姿!!　人間というもの，……
　どの子も育つ，そこにはどの子も育つ可能性が，はっきりと示されているではないか，
この事実は，人類にとって極めて重大な問題ではないか。

私は新らしく教育法をつくり出した，
それは，母国語……日本の言葉の育つ教育法を探究し，そのままを音楽に転用したに過ぎないのである，才能教育法が生れた。
然しそれはどの子も育つ母国語の教育法なのである。

人の子はどの子もすばらしい
育てる条件と方法が正しければ，どの子も，立派に日本語の優れた能力に開発されてゆく能力の持主である。
脳に故障のある筈がない。
教育に故障がある……従って大人達自身が，育てそこなっていることに気がつくときが来たときこそ，人類の明日に光明が輝き始める時であろう，皆育てられる人間の時代がくる。
　なぜ，すてておいて駄目にするのか，
　なぜ，駄目にしておき乍ら，生れつきだといっているのか，
　なぜ，音楽ばかりではなく，日本語を育てるような優れた教育法をつくり，総ての子供を立派に育ててやらないのか。
われわれはこのことを社会に訴えてやまないのである。どの子も育つのだ。
今日のこの武道館いっぱいにひびき亘る三千名の子供達の大合奏は，地上の総ての子供達が，やがて正しく育てられる真の人間能力開発の時代への前奏曲として，世界の人々にそのひびきをつたえることであろう。

■プログラム

開会の辞……大会委員長　本多正明

挨拶……会長　鈴木鎮一

卒業証書授与

お祝いの言葉……名誉会長　徳川義親

卒業生の演奏……ルーレ……バッハ

（卒業生退場）

ピアノ演奏……ピアノ科卒業生

セロ合奏

キラキラ星変奏曲……鈴木鎮一編

ユーダスマカベウスよりの合唱……ヘンデル

白鳥……サン・サーンス

バイオリン合奏

1　ソナタ　ト短調　第一・第二楽章……エックレス

2　協奏曲　イ短調　第一楽章……バッハ

3　アレグロ……フィオッコ

4　カントリーダンス……ウェーバー

5　二つのバイオリンの為の協奏曲　第一楽章……バッハ

6　協奏曲　イ短調　第一楽章……ビバルディ

諏訪支部合奏団

君が眼にて……イギリス民謡

キラキラ星変奏曲……鈴木鎮一編

7　ルーレ……バッハ

8　ユーモレスク……ドボルザーク

9　妖精のおどり……パガニーニ

10　ブーレ……ヘンデル

11　メヌエット　第二番……バッハ

12　無窮動……鈴木鎮一

13　むすんで　ひらいて……ドイツ民謡

14　蝶々……スペイン民謡

15　キラキラ星変奏曲……鈴木鎮一編

全員合唱と合奏

蛍の光……スコットランド民謡

ピアノ伴奏　片岡治子

ビブラフォン奏者　松崎竜生

アナウンサー＜フジテレビジョン＞
緒方はるみ

■PROGRAM

Greeting……Chairman M. Honda

Addoress……President S. Suzuki

Graduation Ceremony

Words of Congratulation…Hon. President Y. Tokugawa

Performance by Graduates

Loure……Bach

Piano

Performance by Graduates

Cello

Twinkle, twinkle little Star-Variations……arr. by S. Suzuki

Chorus from "Judas Macabeus"……Händel

Swan……Saint-Saens

Violin

Sonata g min. 1st & 2nd mov.……Eccles

Concerto a min. 1st mov.……Bach

Allegro……Fiocco

Country Dance……Weber

Concerto d min. 1st mov. for Two Violins……Bach

Concerto a min. 1st mov.……Vivaldi

Performance by Suwa (Gassodan)

Loure……Bach

Drink to Me Only with Thine Eyes……England folk Song

Twinkle, twinkle little Star-Variations……arr. by S. Suzuki

Humoresque……Dvorak

Thema from "Witchs' Dance"……Paganini

Bourre……Händel

Menuetto No. 2……Bach

Perpetum Mobile……S. Suzuki

Lied……German Folk Song

Papillon……Spanish Folk Song

Twinkle, twinkle little Star-Variations……arr. by S. Suzuki

Alud Lange Syne……Scotland folk Song

Piano. Acc. by Mrs. H. Kataoka

Vibraphone by Mr. R. Matuzaki

Concert at the UN

One day in March, 1964, a group of music lovers gathered in the Dag Hammarskjöld Library Auditorium at the United Nations in New York to attend one of the most enchanting musical events of the seson.

The program listed compositions by Bach, Vivaldi, Kreisler. The choice gave no inkling that the performers were of an age when sand pails and baseball bats are likely to have more appeal than violin bows.

The violinists—there were ten of them—were boys and girls from five to twelve years of age.

The children had traveled from Japan to play for American audiences. Their teacher Shinichi Suzuki was with them, but he did not conduct them during the performance. The children had been trained to listen to one another. Suzuki did from time to time tune the violins of the youngest players and help them remove their jackets so they could "play better."

The work of Suzuki, who has taught thousands of child violinists, has attracted world-wide attention. Pablo Casals and David Oistrakh and other master musicians have visited Suzuki's teaching centers in Japan and have come away praising his work. Other travelers in Japan have told of hearing concerts by two hundred, eight hundred, or a thousand children, some as young as three, playing Bach and Vivaldi.

Speaking through an interpreter—Masaaki Honda, M. D., who is a director in this movement—Suzuki shared with the audience at the UN his ideas on music education. He had a ready answer for the question that unnumbered parents and teachers have asked: When should a child's musical education begin? At the cradle, Suzuki says. When the baby is a day old. Maybe earlier.

He brushes aside the idea that children must heve talent to play. Music is for all children, he believes. Let them hear it from the day they are born. Let them hear music every day afterwards —good music. And they will learn music the way they learn their mother tongue.

Suzuki's pupils are given violins as soon as they can hold them. Mothers are taught the fundamentals of holding the violin and moving the bow and fingering. Children as young as two and a half take a lesson a week and continue to hear good music the rest of the week. By the time the children are seven or eight many of them are playing the music of the composers they have listened to since their baby days.

It is Suzuki's hope that more nations will teach their children music from infancy.

From The Elementary School Journal copyright 1965 by The University of Chicago Press.

国連でのコンサート

1964年3月の或る日，ニューヨークの国連本部では音楽愛好者の一群が，その季節の最も魅力ある音楽会へ出席の為にハマーショルド講堂へ集った。

プログラムは，バッハ・ビバルディ・クライスラー作曲のもので，演奏する子供達の年令からしてママゴトか野球をやった方がふさわしい感がした。

バイオリニストは，5才から12才迄の少年少女10名であった。この子供達は米国で演奏する為日本から旅行して来た。彼等の先生の鈴木鎮一氏も一緒であったが，彼は指揮をしなかった。子供達はお互いの音を聴くように訓練されている。鈴木氏は時々子供達の楽器を調絃したり，もっと楽に弾けるようジャケッを脱ぐ手伝いをした。

多くの子供達にバイオリンを指導した鈴木氏の仕事は，広く世界の注目を集めている。カサルス，オイストラッフ，其の他優れた芸術家達は，彼の指導法及び教育を視察してその業績を讃えた。又，日本へ訪問した旅行者は，1,000人以上の子供がバッハやビバルディの曲を合奏した事を報告している。鈴木氏は才能教育研究会の理事本多博士を介して，音楽教育の理想を聴衆に説いた。彼は多くの親，先生達が今迄に繰返し問うた問題について即答した。

即ち，子供の教育は何才から始められるべきか。彼は答えた。

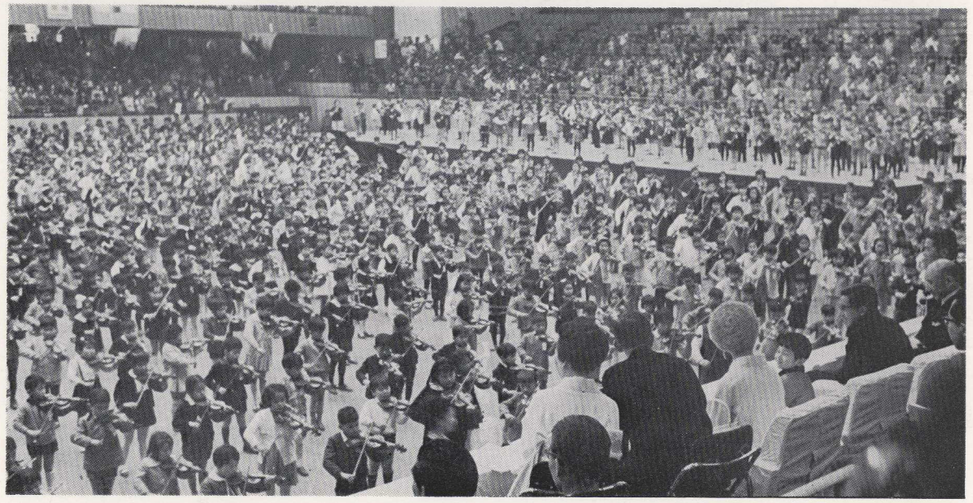
「ゆりかごの中から，いや生まれた日から始められなければならない，或いはそれ以前に。」

彼は子供達が演奏する為に才能が必要であるという考えを排除した。又音楽は全ての子供の為にあるものと信じている。子供には生まれた日から良い音楽を聴かすべきである。そうすれば彼等は，母国語を覚えると同時に音楽を覚える。

楽器は持つことが出来るようになれば，直ちに与えられる。母親はバイオリンの持ち方，指使い等基礎的なことを教えられる。

2才半の子供は週一回レッスンを受け，あとの6日間は良い音楽を聴かされる。7，8才になると彼等の多くは，赤ちゃんの時聴いた作曲家の曲を自分で弾くことが出来るようになる。

鈴木氏はもっと多くの国々が，幼児の時より音楽教育を始めることを希望している。



昨年の大会に御出席を賜った皇太子殿下、美智子妃殿下、浩宮様。（東京都体育館）

■ 才能教育研究会／支部・教室のお問合せは

□本　　部
長野県松本市旭町2の5の15　Tel 松本 (2) 7171

□東京事務所
東京都中野区駅前3 ニューグリーンビル　Tel 東京(381)2603・(383)0445

□東海事務所
愛知県豊橋市吉田町148　Tel 豊橋 (3) 1218